



付図1 近世末期の岩嶺寺及び宮路村全域見取絵図 越中立山岩嶺寺古文書 158×95 cm 雄山神社前立社壇蔵

この絵図は、雄山神社前立社壇が所蔵する古記録の一つで、昭和37年に整理された「越中立山古文書」の岩嶺寺文書絵図②である。
 岩嶺寺文書には見取絵図の類品が13点認められるが、いずれも近世加賀藩支配時代に、岩嶺寺衆徒が藩筋へ提出した嘆願・上申書の附図の下書（控）である。
 この絵図②には、天保14年（1843）に造立された丈六石仏堂が載り、一方安政5年（1858）の泥洪水被災の記録が見られない。即ちこの絵図は、二つの事件の間（15年間）に作成されたとみられる。
 岩嶺寺文書333〔卯（安政2 1855）9月 寺地・宮地・抜地等の混雑に付 兪義願書〕は、いわゆる神地の解釈や取扱いについての詮議を衆徒から寺社奉行に要請したものであるが、これに付随して提出した絵図とも推定される。

この絵図は、安政5年以前の近世末期の岩嶺寺の状況を、かなり精細に記述している。
 岩嶺寺所有の田畑の所在地やおおよその範囲、柴山10か所の状況、用水の流れ、特に50石の寄進田の各衆徒への分配状況、当時の立山寺境内や衆徒集落の状況、24衆徒それぞれの墓地の所在、堂社や塚、旧跡等の所在状況、道路の延びやつながり等精細である。
 そして当然の帰結として、隣接して成長を続けている宮路岩嶺村について、またその中核である茂左衛門家に係る消息も記録されている。
 この絵図は半紙19枚を縦横に継いだ用紙上に筆墨で精細丁寧に書き記され、幾多の情報を提供してくれる優品である。